

## 地方創生に関する特別委員会会議記録（概要）

平成28年2月9日（火）

開 会（午後1時30分）

（委員長あいさつ）

（副委員長あいさつ）

（委員あいさつ）

（席次の決定）別紙のとおり

### 【議 事】

#### （1）COOL JAPAN FOREST構想の概要について

### 【概要説明】

桑原経営企画  
部長

COOL JAPAN FOREST構想の概要についてですが、本構想につきましては、株式会社KADOKAWAとの共同プロジェクトとして進めているものです。平成27年9月議会で、構想の企画案を策定するための補正予算をお認めいただき、現在、同社との調整を行いながら、その策定作業を進めているところです。

本構想は、株式会社KADOKAWAが旧所沢浄化センター跡地に建設を予定している施設を中心に、東所沢地区のまちづくりを進めるものです。本市の魅力である、みどりと文化を存分に活かして、同社の情報発信

力や企画力によって多くの人を呼び込み、そこから市域全体への人の流れを生み出し、地域活性化や産業振興に繋げていきたいと考えています。

本日は、本構想について、民間企業との共同プロジェクトとして進めることに至った経緯や、これまで両者間で行ってきた協議等の概要をご説明させていただきます。

市川経営企画  
課主幹

はじめに、株式会社KADOKAWAと共同でCOOL JAPAN FOREST構想を進めることとなった経緯、及び、これまでの協議等の概要をご説明いたします。資料1の一番左側に時期の欄がありますが、平成25年、26年につきましては、旧所沢浄化センター跡地売却の手續から、所有権が株式会社KADOKAWAに移転するまでを記載しています。

第5次所沢市総合計画後期基本計画の第5章産業・経済の項目に位置づけておりますとおり、地域経済の活性化や雇用創出を進めるために、市有地の有効活用を図る中で、売却先として株式会社KADOKAWAとの繋がりが生まれたものです。

構想を共同で進めることとなったきっかけは、平成27年4月16日に、角川歴彦会長をはじめ株式会社KADOKAWAの関係者が、本市を訪問され、施設建設の概要説明と共同事業の提案をされたことがあります。この訪問の際には、株式会社KADOKAWAが建設する施設を柱として、東所沢地区において周辺環境と一体的な文化の力によるまちづくりを進め、市民に愛される憩いの場としていくこと。また、国が進める地方

創生の取り組みに貢献することに、共同で取り組むことについてご提案を  
頂いたものです。

この時点での構想の呼び方は、遠くに富士山を眺め、東川の桜に包まれ  
たロケーションであることなどから、角川会長が提案された「富士見台サ  
クラプロジェクト（仮称）」と示されました。

その後、市としては、民間企業の活力を活かしたまちづくりや、本市だ  
けでなく広域的な視点での地方創生に貢献する考えに賛同し、共に構想を  
進めるのであれば、本市の魅力である生活の場のすぐそばに、豊かな自然  
があることを存分に活かして「みどりと文化のまちづくり」を軸としてい  
きたい旨を伝えたいうえで、構想を共同で進めることについて合意に至った  
ものです。

これを受けまして、まず、構想における詳細な内容を調整・検討する会  
議体として、推進会議TEAM STARTを組織いたしますとともに、  
構想の名称につきまして、株式会社KADOKAWAの主要事業であるア  
ニメ・ゲームだけでなく、本市における和の文化、狭山茶や三富新田の農  
の伝統などを発信していくクールジャパンと、所沢のみどり豊かな地勢や  
風土、株式会社KADOKAWAの書籍による本の森をイメージしたフォ  
レストという言葉に合わせてCOOL JAPAN FOREST構想  
という名称を、本市職員のアイデアを基に提案したところ、これに決定し  
ました。平成27年6月4日には、この構想を共同で進めることをお知ら  
せするためCOOL JAPAN FOREST構想共同発表会を開催し

たものです。

その後の協議・検討の経緯としては、資料1に日付順に記載しています。検討事項の規模や内容等に応じて、アドバイザリーボード会議、TEAM START会議、その分科会、庁内での調整会議等を行ってきたところですが、また、これらの会議等に並行して、東所沢地区の住民等を対象とした説明会の実施や、建設予定地の現地視察、ららぽーと富士見での開発に関する視察などを行ってきたところですが、

今後の予定ですが、9月議会で補正予算をお認めいただいた構想啓発事業に関わるワークショップ及びところざわ文化創造会議の実施を来週に控えており、また、本年度中に構想の企画案を策定する予定です。

次年度以降は、引き続き構想の推進を図っていきますが、国の補正予算が成立した地方創生加速化交付金の活用も検討しているところです。

また、角川歴彦会長の話によりますと、施設建設については2020年(平成32年)の東京オリンピック・パラリンピックに間に合う時期の完成を目指しており、平成29年に工事を開始し、平成31年に竣工する予定と伺っています。

本市の対応としては、まずは、施設の完成時期に合わせて周辺交通の環境整備等を進めますが、完成後も、施設を活用した連携事業の展開や、特徴的なまちづくりに向けた整備、広域的な観光連携など、構想の推進に取り組んでいくこととなります。

続きまして、資料2をお願いします。構想の推進体制についてご説明い

たします。

ジェネラルプロデューサーは2名です。6月4日の共同発表会におきましてもお知らせしたところですが、所沢市長藤本正人、株式会社KADOKAWA取締役会長角川歴彦氏が、構想全体の統括役として、市と企業、それぞれの立場で必要な役割を実行していくための監督を行うものです。

次に、アドバイザリーボードですが、直訳しますと顧問委員会といった組織であり、構想に対して直接的な指示を行う権限はありませんが、構想が目指す方向性や実施事業のコンセプト等への助言を行う位置づけとなります。作家の荒俣宏さんや、新国立競技場のデザイナーとして話題になりました隈研吾さんをはじめ、幅広い分野から9人のアドバイザリーボードをお願いしています。

TEAM STARTは、構想を実現するための具体的な方法の検討及び調整等を行う担当者レベルでの推進会議という位置づけになります。協議事項としましては、大きく分けて、施設建設や周辺環境整備、開発行為等に関する規制等の確認などのハード系と、国の交付金を活用した構想企画案の策定や、情報発信、啓発事業等の実施に関するソフト系に分類することができるため、それぞれ分科会という呼び方で、会議等を行い詳細な内容の調整を行っているところです。

続きまして、資料3をお願いします。アドバイザリーボード、TEAM STARTそれぞれの会議等における協議事項の概要をご説明します。いずれの会議につきましても、発言内容に株式会社KADOKAWAの企業

運営等に関する機密事項や、アドバイザリーボードのアイデアの流出に繋がる内容が含まれています。また、本市の政策決定過程にある内容に触れるところが多くありますので、会議録につきましては、非公開とさせていただきます。

アドバイザリーボード会議につきましては、1ページ、2ページをご覧ください。これまで2回、11月26日（木）、12月25日（金）に開催しています。主に図書館、美術館、博物館の融合施設である文化コンプレックスの施設コンセプトや、外観・内観イメージ等について議論されました。また、東所沢地域における共通したイメージでの街並みの整備や地域と連動した事業展開の必要性などについても意見交換が行われました。この会議において、施設の機能やデザイン、内部空間のコンセプト等につきましては、概ね了承されているところです。今後は、株式会社KADOKAWAが、開発上の規制等に照らして詳細な設計を行い、建築許可申請等を行っていくことになるものです。

次に、TEAM STARTにつきましては、3ページ、4ページをお願いします。

TEAM STARTの会議は、これまで計4回開催していますが、株式会社KADOKAWAが進めようとしている開発の概要や事業展開の考え方と、本市施策の方向性との合意点を探る協議・検討を行う場として、より詳細な内容について、協議や意見交換を行っています。この会議において、株式会社KADOKAWAから提案されている内容につきまし

ては、施設建設の時期までに対応する必要があるものから、将来的な実現を目指すものまで、さまざまなものがあります。具体的には、文化棟の規模を拡大した場合の「容積率」等の規制緩和の可能性、また周辺との一体的な整備に関するアイデアとして、東所沢駅前までの沿道について一体的なイメージでの整備、コンポストセンター跡地へのバス停や駐車場の設置、東川河岸の親水公園としての整備など施設に関する提案があります。また、道路標識等への主に中国語や韓国語を意識した外国語表記、地方版総合戦略とCOOL JAPAN FOREST構想の連携、国の地方創生の交付金を活用した事業の実施、構造改革特区制度を活用したIT産業特区化の推進、施設内への公共機能、出張所や郵便局の設置、図書館・美術館・博物館の公共運営化などが提案されているところです。

また、施設の機能を検討する中で、衛生センターの敷地の一部を活用して、自由に通行できる「緑道」を整備することについても提案されています。この提案につきましては、昨年11月22日に、周辺にお住まいの東所沢和田三丁目自治会等を対象に説明会を開催し、ご意見を伺ったところで、該当する敷地の売却の可能性も含めて検討しているところです。

これらの提案事項につきましては、交付金活用事業のように、具体的な調整を行ったうえで、すでに実現しているものもありますが、本市の事業として実施するには課題があるものもあります。それぞれの内容に応じて、法令及び条例等の規定の確認や関係部局等への聴き取り、市の施策としての有効性や実現可能性について、調査及び検討を行っているところで

す。その結果、先ほどの衛生センターの事例のように、実施に向けた調整を行っているもの、また、方向性を見直しを提案しているもの、あるいは、実現可能性は未知数ではありますが引き続き検討するものなど、その内容に応じて整理しながら調整及び検討を続けているところです。

また、交付金活用事業については、今年度中に実施・完了する必要がありますし、建設スケジュールに影響する都市計画の見直しや、開発行為関連の検討に関することについては、特に迅速な対応が求められますので、分科会で詳細な協議・検討を行っているところです。

分科会につきましては、資料3の5ページになります。これまで、ハード分科会を14回、ソフト分科会を8回実施しています。

なお、構想の策定に関する現在の状況ですが、構想の大まかな方向性については、すでに所沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）において、紹介しているところですが、今年度中に策定するため、具体的な施設の構成や事業概要、東所沢地域における整備の方向性、市内の観光拠点や地元産業との連動、経済効果を市域全体に波及させるための方策などを調整している段階です。

また、昨年11月に国の地方創生に関わる上乗せ交付金の交付決定を受けて、現在、外国人観光客の動向調査、経済波及効果の調査、地元企業・教育機関等との連携等に関する調査などを実施しており、その結果等を参考に、構想企画案の方向性をまとめていくものです。

なお、2月7日、9日、14日の日程で実施しているレゴ・シリアスブ



レイを活用したワークショップや、2月17日に開催するところざわ文化創造会議につきましては、TEAM STARTでの協議を経て実施することとしたもので、国の交付金を活用した構想啓発事業に該当します。

今後は、構想の実現に向けた、具体的な事業や取り組みを示していく必要がありますので、本市における組織や推進体制を整理するとともに、共同事業者との関係性を明確にするため、協定締結なども視野に入れて進めていきたいと考えています。

COOL JAPAN FOREST構想の経緯や概要については以上ですが、これまで、さまざまところで質問や意見をいただいているものとして、国のクールジャパン政策との関連性や共同プロジェクトの相手方である株式会社KADOKAWAの会社組織の相関関係が分かりにくいといったものがありますので、整理をさせていただき意味で説明をさせていただきます。

まず、国のクールジャパン政策との関連性ですが、資料4をお願いします。こちらの資料は、経済産業省が公開しているクールジャパン政策について（平成28年1月）から抜粋したものです。この中で、国はクールジャパンの推進として、3段階の戦略的海外展開を掲げています。本構想は、「3. 日本で消費」という項目に該当するものと考えています。

第1段階は、日本ブーム創出として、コンテンツや特産物を海外に発信し、浸透を図り、日本ブームを生み出そうとするものです。

第2段階は、現地で稼ぐためのプラットフォーム構築として、製品開発

や、現地のマーケットとの繋がりを構築することで、市場での日本製品のシェア拡大を狙うというものです。国はこれらの取り組みへの支援として、アニメーション作品の現地語への吹き替え、いわゆるローカライズや国際見本市への出展などへの補助金交付などがあります。また、製品開発のブランドプロデュース等を行うプロジェクトチームとのマッチング事業への補助や政府出資による株式会社海外事業開拓支援機構、通称：クールジャパン機構を通して、海外進出の資金融資などを行っています。株式会社KADOKAWAでは、事業展開の一環として、こうした支援制度を活用して同社のアニメやゲーム作品等の海外マーケット開拓に取り組んでいるとのことでした。

第3段階は、日本で消費とあるように、第1段階、第2段階の取り組みによるシェア拡大を受けて、日本に対する興味が高まった外国人に対して、日本各地の地域資源を発信して、海外観光客、いわゆるインバウンドの拡大を図るというものです。

COOL JAPAN FOREST構想には、その要素の一つとして、国内外に情報を発信して、多くの観光客を呼び込み、市内の各拠点への流れを作ることによって経済活性化を促すことも含んでいますので、国のクールジャパン政策においては、この第3段階を推進する事業に該当する取り組みと言えますが、本市施策におきましては、第5次所沢市総合計画後期基本計画の総合的に取り組む重点課題4所沢ブランドの推進とまちの活性化の項目のうち、(3)まちへの誇りや愛着の醸成に関わる事業として位置

づけています。

また、地方創生の取り組みとして、所沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）では、重点プロジェクトにCOOL JAPAN FOREST構想の推進を位置づけるとともに、昨年9月に補正予算をお認めいただいたことを受けて、現在、推進事業を進めているところです。

この財源として活用する国の交付金につきましては、地方創生先行型交付金、上乗せ交付分と言われるもので、内閣府所管の交付金です。なお、国のクールジャパン政策における第3段階の取り組みについては、各地域や企業の取り組みに委ねられている面があり、経済産業省における補助金等の支援制度は創設されていないようです。

最後に、構想の共同事業者である、株式会社KADOKAWAの会社組織についてご説明します。アルファベット表記の株式会社KADOKAWAが、今回の構想の共同事業者ということになります。

その親会社として、カタカナ表記のカドカワ株式会社があります。この会社は、アルファベットの株式会社KADOKAWAと株式会社ドワンゴが経営統合したことから、2014年5月14日付けで、持株会社として設立されたものです。設立当初はKADOKAWA・DWANGO株式会社という商号でしたが、その後、2015年10月1日に、カタカナのカドカワ株式会社と商号を変更しています。このカタカナのカドカワ株式会社は、傘下の会社の経営管理及びそれに付帯、又は関連する事業等を行っています。アルファベットの株式会社KADOKAWA及び株式会社ドワ

ンゴの親会社ということになりますので、両社の事業実績や経営状況等は、カドカワ株式会社として合わせて決算報告されるものです。同社のホームページ上では、決算報告についての資料を閲覧及びダウンロードすることができます。

2つの子会社の事業等についてですが、アルファベットの株式会社KADOKAWAは、主に出版事業、映像事業を行っており、角川書店やアスキーメディアワークスといったブランド名で、小説やコミックスなどの書籍、東京ウォーカーやザ・テレビジョンなどの雑誌の製造・販売、角川映画と言われる映画作品の製作等を行っています。また、携帯端末用ゲームアプリの開発なども行っており、「艦隊これくしょん」といったヒットタイトルもあります。

連結子会社は、出版物の製造・物流等を行う株式会社ビルディング・ブックセンター、電子書籍の配信を行う株式会社ブックウォーカー、東京都調布市にあるCM、映画の撮影所の株式会社角川大映スタジオなど、国内外に数多くあります。

昨年6月4日の共同発表会で紹介されました、株式会社ところざわサクラタウンにつきましては、株式会社KADOKAWAの100%出資によって設立された連結子会社の一つであり、今後、（仮称）ところざわサクラタウンの企画運営等を行っていくこととなります。

一方の株式会社ドワンゴは、ニコニコ動画、ニコニコ生放送に代表されるインターネット上のエンターテインメントコンテンツの提供事業及び

それらを活用したイベントや、闘会議やニコニコ超会議等のライブ事業を行っています。子会社として、家庭用ゲーム機のゲームソフトなどの開発や企画を行う株式会社スパイク・チュンソフト、教育事業を行う株式会社バンタンなどがあります。以上が、株式会社KADOKAWAの会社組織の相関関係です。COOL JAPAN FOREST構想の概要についての説明は以上です。

### 【質 疑】

大石委員

市長のいろいろな所での挨拶の中に、ホテルやイベント会場、インターネットを活用したスクールなどについて話があったが、設計内容の発表時期などについてはどうなのか。また、コンポストセンターはバス停などでの活用を検討しているようだが、東所沢公園の状況はどうなのか。

市川経営企画  
課主幹

ホテル、スクール、また東所沢公園の活用につきましては、アドバイザーリーボード会議の中でも話は出ています。まず、施設の範囲の中の機能としては、アドバイザーリーボード会議の中では、概ね了承という形になっているところですが、機能や施設の規模などは、今後、条例等の規制と照らし、その範囲に建設可能なものについては、手続きを経たうえで決定していくことになると思いますので、実際の設計の発表の時期は、そういった手続きを踏んだうえで、株式会社KADOKAWAが発表を行っていくことになると思います。

大石委員

市長がホテルは決まりましたということをお話しているが、言ってもよいのか。

桑原経営企画  
部長

ホテルやスクールなどについては、株式会社KADOKAWA側ではそのような提案をアドバイザーボード会議などでも言っています。アドバイザーボード会議の中では、意見が特になく了承という感じのところから、そのような発言があったのではないかと思います。先ほど、完成までの日程について説明をしましたが、その完成を睨んだ時には、今年中に都市計画決定をしなければ日程的に間に合いませんので、近いうちに明確になるものと考えています。

大石委員

博物館や美術館などの公共化を検討しているという話について具体的に伺いたい。

市川経営企画  
課主幹

博物館、美術館、図書館の公共運営化について検討しているということについては、株式会社KADOKAWA側からそういった提案を出されていまして、そういった運営の仕方が適切であるかどうかということも踏まえて、株式会社KADOKAWAと調整を行っているところです。市としては、柳瀬地区には図書館分館もありますので、株式会社KADOKAWAの敷地の中に公共の図書館を設置することが有効なのか、また、今、株式会社KADOKAWAが考えている美術館や博物館を当市の公共の

美術館、博物館として運営していくことが適切なのかということは、内容をきちんと確認しないと判断できないという立場をとっています。

城下委員

TEAM STARTの説明の際、口頭で市が検討すべき課題ということで、文化棟の容積率の緩和やバス停の設置、道路標識、国の計画との連携、IT特区の推進、公共施設の運営などが出てきたが、そういったことを資料に含めてほしかった。これは、一つひとつ市として検討に入っているという理解でよいのか。それとも、このようなことが現時点で課題として出されているということなのか。

市川経営企画  
課主幹

先ほど、口頭説明で列挙した課題につきましては、既にこちらで了承して動き出したというのではなく、あくまでも、株式会社KADOKAWAから提案をいただいた内容です。規制等も関係してくるような内容もありますので、一つひとつ確認をしながら、可能なものについては進めているものも中にはあります。その提案の中で、衛生センターの敷地の活用については実現の可能性が高いだろうということで、現在、具体的な話を進めているといった状況です。他の提案につきましては、現時点では、所沢市として了承したという意味ではなく、提案を吟味しているといった状況であるをご理解いただければと思います。

平井委員

どういったものを提案しているかをきちんと書面で示していただきたい

かった。所沢市長と株式会社KADOKAWA取締役会長がジェネラルプロデューサーとして、市と企業がそれぞれの立場でやっていくという説明だったが、その立場の関係で、今つくっている施設に対して、所沢市ほどのぐらい責任を持たなくてはいけないのかもわからない。国の補助金を活用するという点については総額もわからないので、お金の出所についてもどこが責任を持つのかという点が示されていない。また、施設を作った場合に市と連携して取り組みを進めていくということについては、具体的にどのようなことを指しているのか。そして、株式会社KADOKAWAの関連会社の相関図をいただいたが、資本金と社員数、また決算報告も示して欲しい。

市川経営企画  
課主幹

ジェネラルプロデューサーそれぞれの役割の中で、所沢市としてどういったところに責任を果たしていくのかという部分につきましては、あくまでも所沢市としては、市の施策として認められたものについて実施していくという形になります。株式会社KADOKAWAの施設の建設に関しましては、当然、民間企業が開発を行うものですので、株式会社KADOKAWAが責任をもって建設を行い、そこに関連して、市の事業として協力を得て進められないかといった提案があるものにつきましては、共同で進めるものもあります。例えば東所沢公園や道路の整備など、元々市が行わなければならない部分については市が行っていくといった役割分担になるかと思えます。



次に、交付金の活用につきましては、9月議会でもお認めいただいた4,881万2,000円は国の交付割合が10分の10ですので、国の交付金を全て活用して実施をしているところです。

また、株式会社KADOKAWAの資本金等の情報につきましては、確かに公開されている情報ではありますが、企業の情報ということもあり、説明はご遠慮させていただいたというところです。

平井委員

資本金と社員数ぐらいは言えるのではないか。

市川経営企画  
課主幹

公開されている情報としましては、資本金につきましては親会社でしか公開されていませんので、会社四季報2015年第4集からの引用ということになりますが、206億2,500万円です。従業員は連結で合わせて3,758人です。

平井委員

資本金は206億円だが、先日、市議会に報告があった株式会社KADOKAWAの会長の話では、300億円の構想だということを知った。総額を知ったわけではないが、金額的なことが分かるのはいつ頃か。また、先ほどの説明で、公園などのインフラ整備は市が責任を持つということは分かったが、株式会社KADOKAWAから協力を求められた時は一緒にやっていくことになるかもしれないという話もあった。具体的な内容についてはどの時点で分かるのか。

市川経営企画  
課主幹 建設の総額が判明する時期につきましては、株式会社KADOKAWA側の設計のタイミングなどにもよるかと思いますが、今、ここでは明確に回答することはできません。

また、協力したうえでの事業運営などについては、基本的には建設が完了した後から動き出すようなものであり、いわゆる施設を活用した事業ということになると思いますので、もう少し先になってからの検討ということになると思います。

平井委員 300億円の構想ということが気になっていて、市はインフラ整備に限るということなど、市長と株式会社KADOKAWAで念書などを交わしているのか。

市川経営企画  
課主幹 現在は特に文書等の取り交わしが行われていません。現状では交付金を活用した構想の策定を進めているところですので、この構想が出来ましたら、そこから明確な役割を果たすための協定を取り交わすといったことは進めたいと考えています。

城下委員 冒頭、協定も視野に入れているという説明もあったと思うが、その協定の話が今の質疑の部分に関わってくるということか。

市川経営企画 そのとおりです。

課主幹

城下委員

新たな交付金の活用についても検討しているという説明があったが、その点について具体的に伺いたい。

市川経営企画

課主幹

地方創生加速化交付金についてですが、これは国の補正予算で決定をしたもので、この交付金の活用につきましては、平成27年の予算に補正を組まなければ対象とならない交付金です。平成28年度に実施する事業等を検討しているところでしたが、こちらにつきましては、平成27年に補正予算として計上しなければ交付金の活用が出来ないということですので、今度の3月議会において、そういった形でお願いをしていくようなことで今準備を進めているところです。

杉田委員

株式会社KADOKAWAの会長から年間200万人程度の来客数を目指したいという発言があったと思うが、その点について今までどのような議論があったのか。例えば、月別や施設ごとの集客についての議論はあったのか。

市川経営企画

課主幹

美術館等の集客につきましては、株式会社KADOKAWAとしても、他の地域での美術館や博物館、図書館の実績等を参考に算出は行っているということで伺っています。また、年間200万人という想定につきまし

ては、文化コンプレックスへの来場客だけではなく、工場棟には最新の製造システム、いわゆるプリントオンデマンドと言って1冊の発注から印刷製造までできるという最先端の技術の機械を導入することで、視察に来る関連業者などがいるだろうということ、そういったことも含めて年間200万人という想定をされているということです。

また、集客が滞らないようにするための方策としては、いわゆる常設展示ばかりではなく、一定の期間での企画展などを実施することで喚起していくということは聞いています。

杉田委員

仮にうまくいくとすると、スペースの広さがどうなのかということや滞在時間にもよるが、レストランなど新たな必要性があると思うが、駅からの街づくりも考えていくような話もあったと思うので、そういったことは議論としてでていないのか。

桑原経営企画  
部長

確かに200万人が来るとなると、周辺環境整備も十分に考えなければいけません。また、東所沢駅を利用する方もおられると思いますので、当然そこについてもいろいろと考えなければいけません。いずれにしても、株式会社KADOKAWA側で建物をしっかり設計をしたうえで、当然そこからいろいろな情報を得て、周辺住民の皆さんにご迷惑のかからないような対応、あるいはすぐには出来ないかもしれませんが、要望等の活動は視野に入れていきます。

城下委員

集客のことで、先ほど、ららぽーと富士見に視察に行かれたということだが、あそこはすごく渋滞していると思うが、ああいったことを想定しているのか。

市川経営企画

ららぽーと富士見やその他の商業施設等に比べますと、おそらく文化施設というのは、それほどの集客はないだろうという見込みはあります。ただ、集客施設という視点では、道路整備等の方向性などについて参考にさせていただくために視察に行ったものです。

課主幹

島田委員

株式会社KADOKAWAの持っているコンテンツは比較的ゲームやアニメに特化したものが強く、所沢市の挙げてきたブランドと比較すると新しいジャンルだと思う。今後、既存の持っているものにどのように結びつけていくかということについては、なかなか簡単には結び付かないと思うが、どのように結びつけていくのか考えを伺いたい。

市川経営企画

具体的にどのような方法でというところまでは検討に至っていませんが、株式会社KADOKAWAは総合的なゲームやアニメの創作物の会社ですので、そういった中に所沢の要素を盛り込んでいくといった発想はあるようです。市としてもどのような素材が所沢市にあるのかというものを相手側に十分に伝えて活用していただけるような流れを作っていきたいと思っています。

課主幹

島田委員

バス路線やシャトルバスの導入の検討ということについてだが、先日、ららぽーと富士見に視察に行った際に、富士見市から集客にあたってバス路線を誘致したという話だった。東武バスや国際興業バスなど4、5路線あるという。市が運営しているバスもあり、路線や便数など所沢市と同じ問題も抱えているが、集客のために、例えば大宮や与野、志木などからも大手のバス会社を導入して路線をカバーしてもらおうよう工夫していた。バス路線の検討という中で、ところバスと連携することでより利便性が高まるようなことも検討していただきたいと思うがどうか。

市川経営企画  
課主幹

JR東所沢駅から徒歩10分とはいえ、東所沢に乗り入れている武蔵野線は直接都内と繋がっているわけではありませんので、当然、所沢駅や航空公園駅からの流れというものが必要になるだろうといった検討はTEAM STARTの中でも話がされています。アドバイザリーボードの中にも西武鉄道株式会社の取締役会長もおり、バス路線の開拓についてもお願いしていけないだろうかというところでは話がされていますので、今後、オープンが近づいてくる中では、そういったお願いをしていくことになるだろうと思います。

島田委員

単純なシャトルバスのようなイメージではなく、年間200万人ということになると、もう少し広い意味で近隣市などからも来やすいように、路線の拡大なども合わせて検討していただきたい。

大石委員

富士見市はららぽーとに対して、民間バス会社誘致を積極的に行ったそうである。市長が自ら民間のバス会社へ出向いて誘致したそうである。今回も、大宮の方からもバスを誘致して所沢へ来やすくなるように積極的に市を挙げて取り組んでいただきたい。そして、それがところバスなどの経費削減に繋がるなど、交通については是非取り組んでいただきたいと思うがどうか。

桑原経営企画  
部長

年間集客数が200万人とも言われている株式会社KADOKAWAの進出にともない、新しい交通の捉え方ができないかということは考えています。その中で議員ご案内の移動手段としてのバスの活用や大宮からの移動の利便性では、JR武蔵野線の更なる向上についての活動も検討しているところです。また、ここに訪れた人を市内に流し、さらにダイアや日高市まで流れを作れないか視野に入れていきます。

粕谷委員

市として公共施設をどこまで位置づけるかなどの議論は今後行っていくと思うが、建設後のリスク管理などの議論はしているのか。一緒に行っていくのか。

市川経営企画  
課主幹

現在の検討事項は、建設後の施設に市の機能が入ることが中心ではなく、ここに集客施設が集まった時に周辺環境はどのような整備が必要かということの方がどちらかというと主になっています。実際にその中に公共

施設等が入って運営していくということがあれば、そこについてはリスクマネジメント等の視点で検討していくことになると思います。

吉村委員

東川は非常に大事であり、親水公園という構想があるようだが、管理する埼玉県との協議が必要になる。また、桜がメインであれば東川の桜も非常に大事になる。その辺の構想や協議はどの程度進んでいるのか。

市川経営企画  
課主幹

埼玉県との協議ですが、現在、そういった意向があるということについては県にも伝えていきます。実際にそれを整備していくということになれば、所沢市においても当然費用負担等が発生してきますので、実際に施設開設までに間に合わせるかなどは今後検討していく必要があると考えています。可能性として河川敷を活用できるのかなどについては、確認をしている最中です。

亀山委員

地域住民や自治会への説明を行ってきたということだが、内容について伺いたい。

市川経営企画  
課主幹

東所沢和田3丁目自治会への説明会は、衛生センターの導入路として使ってきている敷地を、株式会社KADOKAWAで緑道として南北に抜けられるように整備をすることで、東所沢周辺の方が、例えば東川の方に下りてくるのが便利になるのではないかと、また景観的な部分も含めて一体的



に株式会社KADOKAWAとしては整備がしたいという提案がありました。ただし、それを行うことによって導入路が潰れることとなりますので、衛生センターの車両は西側から出入りをする必要が生じてしまいます。そういったことになった場合について、周辺の住民の方はどうのように考えているかなどを伺う機会として行ったものです。それに対してそのように整備がされれば西側からの出入りになったとしても認めることができるのではないか、ただし、出入口付近の安全等については十分に配慮して欲しいという申し入れがありました。

#### **【質疑終結】**

休 憩（午後2時35分）

（経営企画部退室）

再 開（午後2時45分）

## (2) 今後の活動方針について

中村委員長

本日の概要説明を踏まえ、今後の活動方針について、どうするか。

城下委員

来週17日にミューズでところざわ文化創造会議があるようなので、それを聞いた後に検討してはどうか。

吉村委員

17日の話を聞いてから、株式会社KADOKAWAから話を聞く機会があるといい。できれば本社に伺って話を聞きたい。

松本委員

株式会社KADOKAWAが何をやりたいか、どういう施設をつくりたいか、規模・金額・動員等が見えてきた。今日の市の説明を聞いた限りでは、市として、現在ある周辺地の道路や駐車場、ショッピングセンターをどうするかという絵は描けていない段階のようだ。株式会社KADOKAWAの話や施設のことでも大事だが、東所沢の周辺、亀ヶ谷の交差点から国道463号の交差点までを含めた辺りの渋滞やリスク、道路整備等の予想ができていないので、そこを確認したい。地元からはいろいろな要望が出ているので、地元の人を参考人として呼んでもよいのではないか。

吉村委員

市の周辺地域に対する絵がいつ見えてくるかということがある。それまで待っているのはどうか。株式会社KADOKAWAの話をすぐに聞くということでもなくてもよいが、機会があってもよいと思う。ただ、周辺地域

のことは当然やらなければならないことなので、ある程度の構想をお示し  
いただける時期にやったほうが良いと思う。

松本委員

ららぽーとが富士見市や立川市にできたことによって市はどんな動き  
をしたのか、議会として身近な事例の視察に行く必要もあるのではない  
か。

杉田委員

折を見て株式会社KADOKAWA本社へ行くこともいいし、周辺の視  
察もいいかと思うが、近い遠いにかかわらず、ショッピングモール的な場  
所よりは、美術館や博物館を一緒につくったところの事例があれば見たい  
と思う。

松本委員

人の出入りが多くなってくることで発生するいろいろな問題点のこ  
とが地元でのいちばんの関心ごとなので、駐車場のことなども含め、市の整  
備状況について知りたいと思う。

亀山委員

現地は更地状態であるが、そこへ行くこともいいかと思う。

中村委員長

タイムスケジュールによると、3月議会にこれから入るが、3月末にC  
OOL JAPAN FOREST構想策定の準備をしている現状から、定  
例会中に協議会を開くことはあっても、委員会開催は構想策定後となる。

そうした状況を踏まえ、たうえで活動方針をどうするか。

平井委員

後に株式会社KADOKAWAの本社に行くとしても、まず17日の株式会社KADOKAWAの話を直接聞いてからがよいと思う。

中村委員長

平成32年の東京オリンピック・パラリンピック開催に伴う周辺環境整備や周辺工事などのタイムスケジュールがおおまかに見えたということがあるので、当委員会においてどの段階まで議論していくのか、また、審査範囲がCOOL JAPAN FOREST構想等なので、今回の内容だけではないことも念頭に置いておいていただきたい。

越阪部委員

この構想についてはある程度はわかるが、所沢市のまちづくりについて、特に東所沢駅周辺のまちづくり「等」ということで並行して十分に議論したい。今後の構想と所沢市のあり方について議論ができればよい。

松本委員

まさにその通りで、株式会社KADOKAWAが注目を浴びており、市長もこの件をよく発言しているので注意がそちらに向きがちだが、東所沢駅の都市高速鉄道12号線の延伸のための誘致や区画整理、インターチェンジ、学校の課題等もある。松郷工業団地の拡張についても現実性が高まってきているので、議論していかななくてはならない。優先順位からすれば株式会社KADOKAWAの件からなるだろうが、これと一緒に松郷

工業団地も6haまでやっていこうという話が出ているので、この2件については周辺一帯の整備のこともあるので、一緒に議論していく必要があるのではないか。

平井委員

当委員会としてどこまで議論をしていくかということだが、今日の話だけでは決められない。

粕谷委員

こうして特別委員会を立ち上げ、執行部でもTEAM STARTを立ち上げているので、所沢市全体のまちづくりの中の1つということで、並行して情報共有をしていかなければならない。今、夢を描いてやっていることはいいと思うが、できた後はどうなっていくのかということについても責任ある立場として議論をしていかななくてはいけないと思う。

中村委員長

現時点の情報だけで、これからどうしようということは決められないと思う。3月議会もあるので、皆さんからの意見を踏まえた上で、正副委員長で内容を整理して、次の委員会を開催したい。内容については、正副委員長に一任していただくことでよろしいか。

(委員了承)

島田委員

一般質問の取り扱いで、COOL JAPAN FOREST構想以外の東所沢地域の話で広がっていった場合の、一般質問との兼ね合いについ

て確認したい。

事務局

特別委員会と一般質問のあり方については、良識に任せることとするということが議会運営委員会の了承事項となっております。本特別委員会は、COOL JAPAN FOREST構想等を中心に調査・研究し、情報共有を図るため設置されておりますので、この構想については、一般質問を控えていただく方がよろしいかと考えますが、この点については、特別委員会の中でご確認いただければと思います。

平井委員

委員と委員外議員の認識とはちょっと違うのではないかと思うので、良識の範囲ということは認めないといけないのではないか。

事務局

その点につきましても、ご確認いただければと思います。

中村委員長

いずれにしても、委員会の場で議事録が残っているところなので、そのとおりとしか言いようがない部分もあるのだが、委員においては、なるべくそういった疑念が抱かれないような質問をしていただけたらと思う。

(委員了承)

休 憩 (午後 3 時 2 分)

(休憩中に協議会を開催した。)

再 開（午後3時17分）

中村委員長

協議会の中で、今後の委員会の進め方について様々な意見をいただいたが、3月議会が終わって、3月末にCOOL JAPAN FOREST構想が策定される予定であるということから、構想の内容について、次回委員会で、執行部あるいは株式会社KADOKAWAから説明をいただき、同様の施設が近隣にあれば、現地視察などを行う方向で考えていきたいと思うがよろしいか。

（委員了承）

中村委員長

(3) 次回の日程について

次回の委員会は、4月12日または13日で調整をし、開催すること  
よろしいか。

(委員了承)



中村委員長

(4) その他

先ほども話がでたが、参考までに、「ところざわ文化創造会議」が2月17日(水)午後6時半から8時まで、ミューズで開催される。内容については、COOL JAPAN FOREST構想の将来的な構想の姿や所沢市の文化が向かう方向などについて、株式会社KADOKAWA取締役会長の角川歴彦氏、作家の荒俣宏氏、藤本市長の3名が語るということなので、都合がつく方は、是非参考までに参加いただければと思う。

散 会 (午後3時19分)